


世界から選ばれる「三方よし・未来よし」の滋賀の実現

滋賀県（2019年度選定）

<h3>1. 地域の特徴と課題及び目標</h3>	<p>京阪神の大都市近郊にありながら、琵琶湖をはじめとする豊かな自然、多様な文化芸術の価値などを併せ持ち、住民主体の環境保全活動「石けん運動」や、近江商人の「三方よし」、糸賀一雄氏の福祉思想などが現在に引き継がれ、SDGsに通じる精神が息づいている。一人ひとりが幸せを感じることができる滋賀を、行政だけでなく、県民や企業、大学等、みんなの力でつくることを目指している。</p>	<h3>2. 関連するゴール</h3> 
<h3>3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)</h3>	<p>2030年に向け、未来を拓く新たな価値を生み出す産業「経済」、未来を支える多様な社会基盤「社会」、未来につながる豊かな自然の恵み「環境」を実現するため、経済・社会・環境の三側面をつなぐ人づくりに取り組んでいく。</p>	

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

【MLGs（マザーレイクゴールズ）】
 ・琵琶湖版のSDGsである、MLGsの策定の推進。琵琶湖を切り口としてSDGsをアクションまで落とし込み、琵琶湖を通じて県民等多様な主体による活動がSDGsにつながっていることを発見できる仕組みづくりを推進。



【こどなBASE】
 ・2023年10月に企業の持続可能な社会づくりへの取組のサポートと、次代を担う子どもたちが未来へ夢を描ける多様な体験機会の創出を図るため、企業と子どもたちを見守る現場のマッチングやコーディネートを行う「こどなBASE」というプラットフォームを立ち上げた。

5. 取組推進の工夫

・MLGsの周知を図るため、これまで環境保全や琵琶湖保全に関心のなかった層を対象としたPR動画を作成・発信。人気のある動画クリエイターの起用や各種SNSでの発信など、幅広い層にリーチするよう工夫した。
 ・滋賀県の企業ならではの体験を子どもたちに届けられるよう意識し、現場見学やアンケート等にて情報収集することにより企業と子どもを見守る現場の双方が実施するメリットを感じられるように工夫した。

6. 取組成果

【MLGs（マザーレイクゴールズ）】
 ・令和6年3月末日現在
 賛同者数：1,593者
 ロゴマークの利用届け出数：295件

【こどなBASE】
 ・令和6年3月末日現在
 ・登録企業：31企業・団体
 ・体験プログラムの実施数：6回
 ・体験した子どもの人数：198名
 ・企業交流会の実施数：7回



7. 今後の展開策

・MLGsを世界に通じるローカルSDGsモデルとして、県内での認知度の向上を図るとともに、国内外へも展開していく。
 ・今後も、SDGsに取り組む企業と協力しながら県内の子ども達にもSDGsや社会貢献の取組の重要性を伝えていくとともに、子どもの視点で更に企業の取組が加速するよう取り組んでいく。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

MLGsについては、国内では京都、大阪など琵琶湖・淀川水系下流域および首都圏、国外においては第19回世界湖沼会議（ハンガリー）などで発信している。
 また、こどなBASEイベント（トークセッション等）において、滋賀県の取組を発信。（京都府、福岡県や神奈川県等からも参加。）